

# 宇宙戦略基金事業の経過報告

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構

2026年5月21日

# 宇宙戦略基金

- 我が国として民間企業・大学等が複数年度にわたって大胆に研究開発に取り組めるよう、新たな基金を創設し、民間企業・大学等による先端技術開発、技術実証、商業化を強力に支援。

令和5年度補正予算3,000億円  
(文科省1,500億円、経産省1,260億円、総務省240億円)  
令和6年度補正予算3,000億円  
(文科省1,550億円、経産省1,000億円、総務省450億円)  
令和7年度補正予算2,000億円  
(文科省950億円、経産省740億円、総務省310億円)

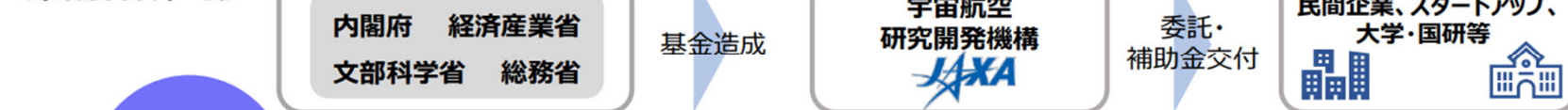
第三期

- 速やかに総額 1 兆円規模の支援を行うことを目指すとともに、民間投資や宇宙実証の加速、地域やスタートアップ等の国際競争力につながる特色ある技術の獲得・活用や産業の集積等の観点からスタートアップを含む民間企業や大学等の技術開発への支援を強化・加速する。
- 加えて、政府によるアンカーテナンシーを確保し、民間企業の事業展開の好循環を実現。

## 『強い経済』を実現する総合経済対策（令和7年11月21日 閣議決定）

宇宙戦略基金による速やかな総額 1 兆円規模の支援を通じて、宇宙空間における輸送、衛星及び探査の分野において先端技術開発、技術実証及び商業化を支援する。

<本制度のスキーム>



### 【事業全体の目標（3Goals）】

- 宇宙関連市場の拡大（2030年代早期に4兆円⇒8兆円等）  
宇宙関連市場の開拓や市場での競争力強化を目指した技術開発を支援
- 宇宙を利用した地球規模・社会課題解決への貢献  
社会的利益の創出等を目指した技術開発を支援
- 宇宙における知の探究活動の深化・基盤技術力の強化  
革新的な将来技術の創出等に繋がる研究開発を支援

# JAXAにおける宇宙戦略基金事業の運営体制



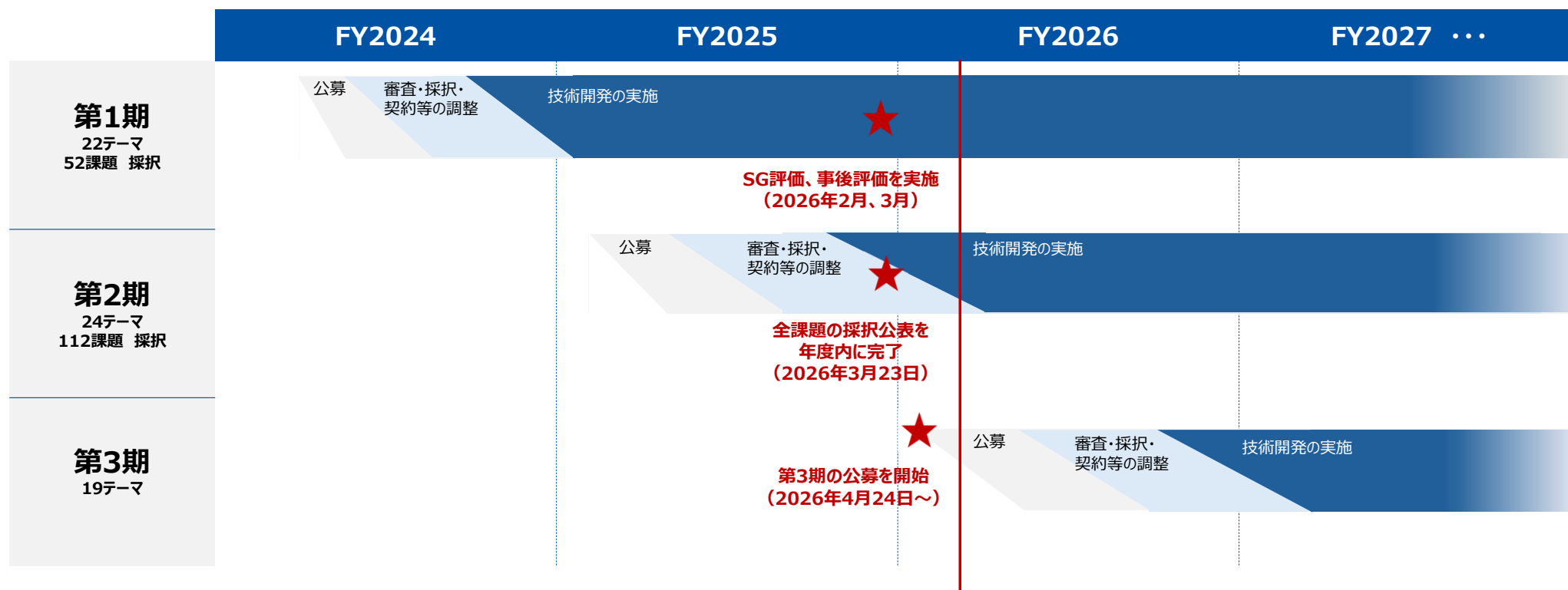
- 宇宙戦略基金基本方針を踏まえ、理事長からの委嘱による外部有識者のPD（プログラムディレクター）・PO（プログラムオフィサー）体制を構築し、審査・評価等を実施。
- 公募・採択、技術開発マネジメント等を担当する「宇宙戦略基金事業部」の発足（2024年7月）以降、事務局の増員等により運営体制の強化を順次進めているところ。

（令和8年4月時点）



# 宇宙戦略基金事業全体の進捗状況（主な報告内容）

- 2024年度に第1期公募を開始して以降、全体として順調に進捗。昨年度末には第2期の採択公表をすべて完了し、本年4月より、2月に策定された実施方針の内容を踏まえて、第3期の公募を開始。
- 採択後、技術開発を開始した事業者に対しては、適宜にその進捗を確認しつつ、ステージゲート評価等も開始したところ。



1. 第1期事業

2. 第2期・第3期事業

3. 今後の予定



# ステージゲート評価の進捗状況

- 第一期の採択課題のうち、41件についてのステージゲート（SG）を順次実施予定。うち6課題のSG評価を完了し、その結果を公表した。

※2026年5月時点

年度	2025/4Q	2026/1Q	2026/2Q	2026/3Q	2026/4Q	2027/1Q	2027/2Q	2027/3Q	2027/4Q			
輸送	宇宙輸送機の革新的な軽量・高性能化及びコスト低減技術【C委託】										総務省	
						(株)ニコン, 三菱重工(株), 清水建設(株)					丸八(株)	文部科学省
衛星等	将来輸送に向けた地上系基盤技術【C→B委託】										経済産業省	
	日本郵船(株), SPACE COTAN(株)											
	SG評価を実施した6課題					宇宙輸送システムの統合航法装置の開発【B委託】					固体モータ主要材料量産化のための技術開発【B委託】	
						三菱プレジジョン(株)					(株)IHIEアロスペース	
探査等	商業衛星コンステレーション構築加速化【A補助】											
	(株)Synspective, (株)QPS研究所, 日本電気(株), (株)アークエッジ・スペース											
						(株)Synspective, (株)QPS研究所, 日本電気(株), (株)アークエッジ・スペース					(株)Synspective, (株)QPS研究所, 日本電気(株), (株)アークエッジ・スペース	
	衛星サプライチェーン構築のための部品・コンポーネント開発・実証【A補助、B委託】											
NECスペーステクノロジー(株), 三菱電機(株), シャープエネルギーソリューション(株), ナノブリッジ・セミコンダクター(株)										(株)ジーエス・ユアサテクノロジー, コンボジットテラーズ(株), NU-Rei(株), 三菱電機(株), ナノブリッジ・セミコンダクター(株)		
探査等	高精度衛星編隊飛行技術【C→B委託】											
	インターステラテクノロジズ(株)											
						東京大学, 名古屋大学						
	高出カレラザの宇宙適用による革新的衛星ライダー技術【C委託】											
										京都大学		
探査等	国際競争力と自立・自在性を有する月面水資源探査技術											
	物資補給システムに係る技術【C→B補助】											
						東京科学大学						
	再生型燃料電池システム【C→B補助】											
										トヨタ自動車(株)		
国際競争力と自立・自在性を有する物資補給システムに係る技術【C→B補助】												
										A) (株)日本低軌道社中		
月測位システム技術【C→B委託】												
										(株)アークエッジ・スペース		
低軌道汎用実験システム技術【C→B委託】												
										Space BD(株)		
大気突入・空力減速に係る低コスト要素技術【C→B委託】												
										次世代宇宙システム技術研究組合		
低軌道自律飛行型モジュールシステム技術【C→B補助】												
										(株)日本低軌道社中		
高分解能・高頻度な光学衛星観測システム【B補助】												
										(株)Marble Visions		
月面水資源探査技術【C→B委託】												
										東京科学大学		

※1：SG評価対象外の課題についても、適宜中間評価を行うなど、技術開発の進捗状況等を把握し、状況変化等に応じて、適時適切に中止・見直し・加速等を判断することありうる。

※2：FSや調査研究等、実施期間が短くSG評価・中間評価の対象外の課題については、POによる課題管理を通じて技術開発マネジメントを実施。

# ステージゲート評価の進捗状況

- 下記6課題については、採択時に付された特別な要処置事項への対応状況の確認や、技術開発期間の初年度における進捗確認を主目的としたステージゲート評価（加速、継続、見直し、中止を判断）を実施。
- 事業開始から1年程度となる評価実施時点において、いずれもの課題も継続が妥当との評価結果となった。

技術開発テーマ名	技術開発課題名	実施機関名	SG評価結果 (評価の実施時期)
高精度衛星編隊飛行技術 (文部科学省措置分)	超多数機の精密制御が可能な編隊飛行技術の構築	インターステラテクノロジズ株式会社	継続 (2026年2月)
衛星サプライチェーン構築のための部品・コンポーネント開発・実証 (経済産業省措置分)	国産太陽電池セル・カバーガラスおよび搭載アレイの開発	三菱電機株式会社	継続 (2026年2月)
商業衛星星座構築加速化 (経済産業省措置分)	光通信衛星星座構築及びシステム実証に係る技術開発	日本電気株式会社	継続 (2026年3月)
	多目的衛星星座群の構築（多様な波長・周波数情報を拡張するセンサを搭載した衛星星座の構築）	株式会社アークエッジ・スペース	継続 (2026年3月)
	小型SAR衛星の量産・打上げと段階的性能向上	株式会社Synspective	継続 (2026年3月)
	小型SAR衛星の量産加速化及び競争優位性確立に向けた機能強化	株式会社QPS研究所	継続 (2026年3月)

# 第一期事業の主な進捗・成果

- 各領域で以下を含む具体的な進捗・成果が生まれてきている。

## 衛星等

- 【商業衛星コンステレーション構築加速化】QPS研究所、Synspectiveが、25年12月に**防衛省の衛星コンステレーション整備・運営等事業者に選定**。今後、補助事業で開発・製造される衛星を順次、サービスイン予定。**26年5月にはSynspectiveが基金で支援された衛星1機目の打ち上げを予定**。
- 【衛星サプライチェーン構築のための衛星部品・コンポーネントの開発・実証】三菱電機とPXPが、宇宙を想定した高耐久な条件における**ペロブスカイト太陽電池セルの世界最高レベルの変換効率を達成**。CIGSセルの試作にも成功。
- 【衛星データ利用システム海外実証（フィジビリティスタディ）】パシフィックコンサルタンツが、**プロトタイププラットフォームで一連の解析を実施**（衛星画像の取得・解析、被害算定、治水施設特定、氾濫流解析、被災要因特定など）。**完成版を2026年12月を目標に開発中**。出口戦略として、顧客ニーズ分析によるツール改善や運用体制構築を検討。**海外パートナー獲得に向けた営業・広報活動を実施**。

## 輸送

- 【宇宙輸送システムの統合航法装置の開発】三菱プレジジョンが、様々なロケットに適用できる**小型・低コスト・高性能な自律飛行安全用統合航法装置のBBM（ブレッド・ボード・モデル：試作モデル）製作を完了**し、評価を開始。また、地上検証装置の機体シミュレータのハードウェア製造も完了し、機体シミュレータに搭載するソフトウェアを設計中。ロケット打上げ事業者のロケットへの実証搭載機会を獲得。

## 第一期事業の主な進捗・成果

- 各領域で以下を含む具体的な進捗・成果が生まれてきている。

### 探査等

- 【低軌道自律飛行型モジュールシステム技術】日本低軌道社中が、**日本モジュールシステム定義審査を完了**し、基本設計を開始。同社は技術開発テーマ【国際競争力と自立・自在性を有する物資補給システムに係る技術】においても、**HTV-XCシステム定義審査を完了**し、基本設計を開始。技術開発の加速に向けた**三菱重工、三菱電機からの出資完了**。
- 【再生型燃料電池システム】トヨタ自動車が、**再生型燃料電池システム概念設計終了・基本設計を開始**し、エネルギー循環試験実施のため**国内評価場建設に着手**（27年度第1四半期稼働予定）。

### 共通

- 【SX研究開発拠点】名古屋大学が25年9月、高圧デトネーションエンジン※と燃焼室が複数個あるクラスター化デトネーションエンジンの**燃焼実験を行い将来の実証実験の実現の目途が付いた**。※爆発を連続回転させ推進力にする高効率エンジン
- 【SX研究開発拠点】東京大学が、25年10月に「**宇宙資源連携研究機構（Center for Space Resources and Innovation）**」を設置。

# 事業が終了した技術開発課題に対する事後評価結果

第1期技術開発テーマ「月-地球間通信システム開発・実証(FS)」(総務省計上分)で実施した2課題については、約1年間の事業期間を終了。基本方針等に基づき、事後評価を実施(2026年3月)。

## 第1期技術開発テーマ「月-地球間通信システム開発・実証(FS)」(総務省計上分) 公募概要(2024年7月 公募開始)

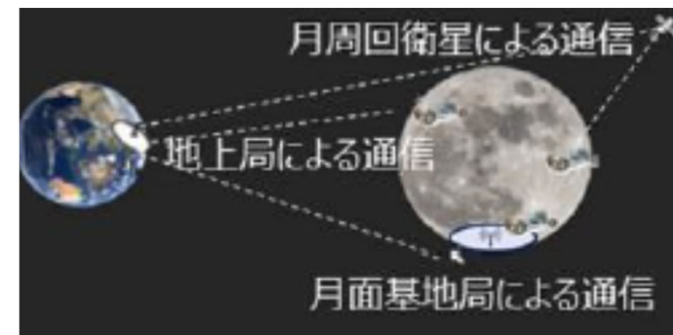
### <技術開発実施内容>

「**月や火星圏以遠への探査や人類の活動範囲の拡大に向けた我が国の国際プレゼンスを確保**」等の寄与に向けて月-地球間通信の実現可能性評価を行うため、以下を、1年間程度を目標として調査検討する。

- (1) **月-地球間における大容量かつ高精度捕捉・追尾等が可能な通信アンテナ**の開発に向けた**地球地上局の基本設計の確立**
- (2) 移動しながらも高画質映像伝送が求められる有人/無人探査機等のミッションに対して**高品質・高信頼性のモバイル通信環境を月面において提供することの実現可能性等の評価**

### <支援の方法>

- 支援期間：(1) **最長1年間**以内程度 (2) **最長1年間**程度  
支援規模：(1) (2) 合わせて**5億円程度を上限**とし、**1件程度を採択**  
支援形態：**委託**



## 採択機関及び技術開発課題(2024年11月 採択結果公表)

- KDDI株式会社 「月-地球間及び月面での大容量通信実現に向けた実現可能性検討」※1
- 福井工業大学 「福井工業大学13.5m地上局を利用した月-地球間通信システム設計の提案」※2

※1 (1) 月面探査向け地上局の整備及び(2) 月面モバイル通信環境の構築の2項目を実施 ※2 (1) 月面探査向け地上局の整備の1項目を実施

# 事業が終了した技術開発課題に対する事後評価結果



第1期技術開発テーマ「月-地球間通信システム開発・実証(FS)」(総務省計上分)で実施した2課題については、約1年間の事業期間を終了。基本方針等に基づき、事後評価を実施(2026年3月)。

## KDDI株式会社(月-地球間及び月面での大容量通信実現に向けた実現可能性検討)

**評価結果：技術開発計画は想定通りに進捗し、優れた成果が得られている**

多数機関・組織が参画した検討において、代表機関がマネジメントをしっかり行い、短期間に月-地球間通信の地球地上局の基本設計の確立、月面のモバイル通信の実現可能性の評価を行い、月探査計画での日本の貢献とプレゼンス確保が可能であることを示したことが高く評価された。

(本FSによる主な成果)

- 月探査で要求される周波数帯、送受信性能、ネットワーク運用に対応可能な地上局開発の実現可能性を示し、開発仕様書の案を作成(海外の事業者による日本での地上局利用のニーズがあることも明らかになった。)
- 月面上で高品質・高信頼性なモバイル通信環境を構築するための技術課題と開発計画案を提示 等

## 福井工業大学(福井工業大学13.5m地上局を利用した月-地球間通信システム設計の提案)

**評価結果：技術開発計画は凡そ想定通りに進捗し、当初目標を概ね達成している。**

大学・研究者の発想を取り入れた検討により、限界を識別しつつ13.5m級のアンテナを始めとする学術用のアンテナによる月探査支援の可能性の広がりを示した点が評価された。

(本FSによる主な成果)

- 福井工大が保有するFUT13.5mが、X帯を中心とするTT&C運用について多くのミッションに対応可能であることを示した。(広帯域データ伝送ではマージン不足となる場合があり、30m級以上のアンテナやデータレートの見直し等の対策が必要なことも明らかとなった。)
- アンテナ、受信系、ソフトウェア無線等の技術検討を通じ、地上局の運用だけでは得られない経験を積むことで、専門人材の育成にも貢献。10

# 宇宙戦略基金事業（第1期）の執行状況



- 第一期公募テーマの採択結果に伴う支援件数や支援予定金額、契約締結・交付決定等の状況は下表のとおり。
- 今後も、ホームページ等を通じて、随時、支出状況等を公表していく予定。

## 【前提】

- ① 外部有識者からなる審査会から示された採択にあたっての指摘事項等を踏まえ、**採択事業者が技術開発計画書の作り込み**を実施し、**POの承認**を受けた後、**委託契約締結（委託事業）／補助金交付決定（補助事業）を開始**。
- ② 基金事業としての特性・利点を最大限に活かし、事業者に対する予見可能性を確保する一方、事業化や成果最大化に向けた技術開発マネジメントを有効に実施するとともに、執行管理を適切に行う観点から、当初の委託契約（委託事業）／補助金交付（補助事業）の期間は、**最初のステージゲート評価又は中間評価が終了する日の属する年度の末日まで**。
- ③ 採択事業者に対する支払方法は、事業終了後の確定検査結果に基づき行う**精算払い**、採択事業者から支出計画に基づく請求を受けて行う**概算払い**。

（令和8年5月1日時点）

担当省	技術開発テーマ数	採択数	支援上限額の総計 <sup>注1</sup>	契約締結・交付決定済額の総計 <sup>注2</sup>
総務省	4テーマ	5件	225億円	112億円（5件）
文部科学省	13テーマ	24件	1,394億円	998億円（24件）
経済産業省	5テーマ	26件	1,138億円	505億円（23件）
合計	22テーマ	55件	2,757億円	1,616億円（52件）

注1 支援上限額は、予見可能性確保の観点から、採択時に、事業者に対して実施期間全体を通して支援する上限額を通知したものであり、ステージゲート評価等により金額が変動する場合がある。なお、3,000億との差額については、事務費の他、技術開発動向・リスクの変動等にも機動的に対応しつつ、研究加速等を行うために必要な経費であり、これらについては、ステアリングボードでの議論を経て、速やかに執行を進めていく予定。

注2 契約締結・交付決定済額は、最初のステージゲート評価又は中間評価が終了する日の属する年度の末日までの金額。ステージゲート評価又は中間評価等により契約変更・変更交付決定が行われた場合はその金額を反映。カッコ内は契約締結・交付決定済の件数。（四捨五入の関係で合計が合わない場合がある）

1. 第1期事業

2. 第2期・第3期事業

3. 今後の予定



# 宇宙戦略基金事業第2期（令和6年度補正予算分）採択結果（1/2）



- 第2期技術開発テーマの**全24テーマ**について、審査会による審査を経て採択を決定し、公表を完了（3月23日）。第2期全体での提案総数は336件、採択した実施課題の総数は112件。**厳正な審査の結果、「採択なし」とされた技術開発テーマもみられた。**  
（赤枠は、前回報告（令和8年1月21日 第121回宇宙政策委員会）からの追加分）
- 今後、各課題における技術開発計画の調整等を進め、契約完了/補助金交付決定後、順次、事業を開始。

No.	第2期 技術開発テーマ名	公募期間	採択予定件数	提案数	採択結果
1	【総】衛星光通信の実装を見据えた衛星バス及び光通信端末の開発及び製造に関するフェジビリティスタディ	5/16～7/17	2件程度	3件	3件採択 (令和7年10月10日 公表)
2	【文】月面インフラ構築に資する要素技術	5/16～7/17	3～5件程度	20件	3件採択 (令和7年10月10日 公表)
3	【文】高頻度物資回収システム技術	6/13～8/7	1件程度	2件	1件採択 (令和7年11月7日 公表)
4	【総】衛星光通信を活用したデータ中継サービスの実現に向けた研究開発・実証	6/27～8/21	1件	1件	1件採択 (令和7年11月21日 公表)
5	【経】高頻度打上げに資するロケット部品・コンポーネント等の開発	5/16～7/17	10件程度	19件	7件採択 (令和7年11月21日 公表)
6	【経】射場における高頻度打上げに資する汎用設備のあり方についてのフェジビリティスタディ	7/25～9/18	1件程度	2件	1件採択 (令和7年11月21日 公表)
7	【文】空間自在利用の実現に向けた技術	6/27～8/28	7件程度	16件	6件採択 (令和7年11月28日 公表)
8	【文】船外利用効率化技術	6/27～8/28	1件程度	1件	1件採択 (令和7年11月28日 公表)
9	【経】高頻度打上げに資するロケット製造プロセスの刷新	6/13～8/21	10件程度	14件	9件採択 (令和7年12月19日 公表)
10	【文】地球環境衛星データ利用の加速に向けた先端技術	6/13～8/21	3件程度	13件	3件採択 (令和7年12月19日 公表)
11	【総】国際競争力ある通信ペイロードに関する技術の開発・実証	7/11～9/4	1件程度	3件	1件採択 (令和7年12月19日 公表)
12	【総】衛星光通信の導入・活用拡大に向けた端末間相互接続技術等の開発	7/11～9/4	1件程度	1件	1件採択 (令和7年12月19日 公表)
13	【総】衛星通信と地上ネットワークの統合運用の実現に向けた周波数共用技術等の開発・実証	8/22～10/16	1件	1件	1件採択 (令和8年1月16日 公表)
14	【文】月極域における高精度着陸技術	7/25～9/25	1件程度	2件	1件採択 (令和8年1月16日 公表)
15	【文】軌道上データセンター構築技術	7/25～9/25	1件程度	2件	1件採択 (令和8年1月16日 公表)

# 宇宙戦略基金事業第2期（令和6年度補正予算分）採択結果（2/2）



- 第2期技術開発テーマの**全24テーマ**について、審査会による審査を経て採択を決定し、公表を完了（3月23日）。第2期全体での提案総数は336件、採択した実施課題の総数は112件。**厳正な審査の結果、「採択なし」とされた技術開発テーマもみられた。**  
（赤枠は、前回報告（令和8年1月21日 第121回宇宙政策委員会）からの追加分）
- 今後、各課題における技術開発計画の調整等を進め、契約完了/補助金交付決定後、順次、事業を開始。

No.	第2期技術開発テーマ名	公募期間	採択予定件数	提案数	公募・採択状況
16	【文】空間自在移動の実現に向けた技術	8/8～10/9	3～6件程度	11件	5件採択 (令和8年1月23日 公表)
17	【文】宇宙転用・新産業シーズ創出拠点「SX-CRANE」	8/8～10/2	5件程度	49件	5件採択 (令和8年2月6日 公表)
18	【経】宇宙機の環境試験の課題解決	8/22～10/23	6件程度	11件	7件採択 (令和8年2月13日 公表)
19	【文】有人宇宙輸送システムにおける安全確保の基盤技術	8/8～10/16	4件程度	7件	4件採択 (令和8年2月20日 公表)
20	【経】衛星データ利用システム実装加速化	7/11～10/2	38件程度	46件	17件採択 (令和8年3月13日 公表)
21	【文】SX中核領域発展研究「SX-ARK」	9/12～11/6	20～40件程度	95件	31件採択 (令和8年3月13日 公表)
22	【文】次世代地球観測衛星に向けた観測機能高度化技術	8/8～10/16	3件程度	8件	2件採択 (令和8年3月23日 公表)
23	【経】革新的衛星ミッション技術実証支援	8/8～10/16	3件程度	5件	1件採択 (令和8年3月23日 公表)
24	【文】スマート射場の実現に向けた基盤システム技術	8/22～10/30	1～2件程度	4件	採択なし (令和8年3月23日 公表)
				提案数総計 336件	採択数総計 112件

# 第1期、第2期における採択状況の全体傾向

- 第一期・第二期ともに全国各地から多様なプレイヤーからの応募及び参画があった。
- 第二期では、採択予定数が多い技術開発テーマの設定がなされたこと等から、第一期に比し、応募件数は約3倍、採択件数は約2倍。

## 第一期

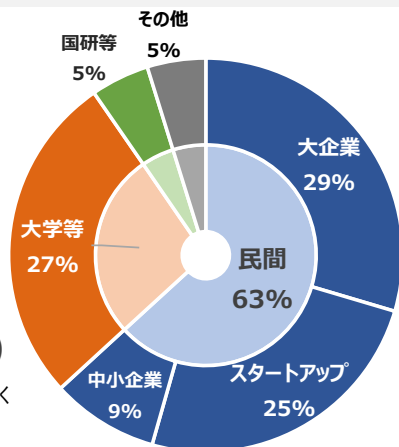
22テーマに対して

130件・247機関の応募から、

**52件採択**※

(全120機関が参画)

※2026年3月に追加公募で採択した3機関を除く



第1期実施機関の属性割合

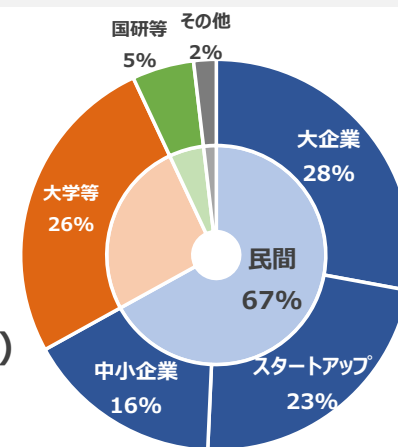
## 第二期

24テーマに対して

336件・599機関からの応募から、

**112件採択**

(全215機関が参画)



第2期実施機関の属性割合

**28都道府県**から採択

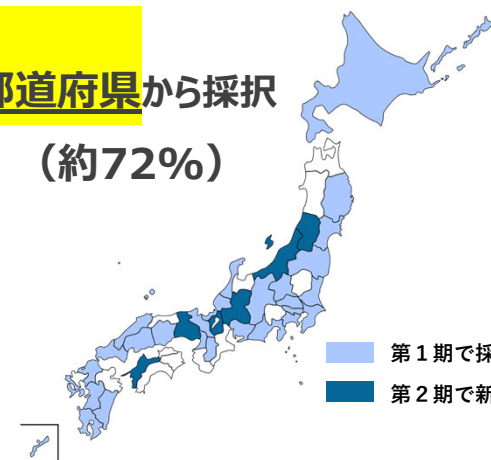
(約60%)



第1期・第2期合計で

**34都道府県**から採択

(約72%)



■ 第1期で採択された都道府県  
■ 第2期で新たに採択された都道府県

# 宇宙戦略基金事業（第2期）の執行状況

- 第二期公募テーマの採択結果に伴う支援件数や支援予定金額、契約締結・交付決定等の状況は下表のとおり。
- 厳正な審査の結果、大幅に採択予定数に満たない等の技術開発テーマが複数あったため、今後、再公募や追加公募等を実施予定。

## ○ 再公募及び追加公募を予定する技術開発テーマ

- スマート射場の実施に向けた基盤システム技術（文部科学省措置分）【再公募】
- 衛星データ利用システム実装加速化事業（経済産業省措置分）
  - (A) 衛星データ利用システムの開発・実証【追加公募】
- 高頻度打上げに資するロケット部品・コンポーネント等の開発（経済産業省措置分）【追加公募】

## ○ 支援期間及び支援上限額をSG評価時点までとし、SG評価において事業継続可否等を決定することとした技術開発テーマ

- 地球環境衛星データ利用の加速に向けた先端技術（文部科学省措置分）
- 空間自在移動の実現に向けた技術（文部科学省措置分）

（令和8年5月1日時点）

担当省	技術開発テーマ数	採択数	支援上限額の総計 <sup>注1</sup>	契約締結・交付決定済額の総計 <sup>注2</sup>
総務省	5テーマ	7件	436億円	164億円（4件）
文部科学省	13テーマ	63件	1109億円	244億円（16件）
経済産業省	6テーマ	42件	719億円	260億円（16件）
合計	24テーマ	112件	2265億円	668億円（36件）

注1 支援上限額は、予見可能性確保の観点から、採択時に、事業者に対して実施期間全体を通して支援する上限額を通知したものであり、ステージゲート評価等により金額が変動する場合がある。なお、3,000億との差額については、事務費の他、技術開発動向・リスクの変動等にも機動的に対応しつつ、研究加速等を行うために必要な経費であり、これらについては、ステアリングボードでの議論を経て、速やかに執行を進めていく予定。

注2 契約締結・交付決定済額は、最初のステージゲート評価又は中間評価が終了する日の属する年度の末日までの金額。カッコ内は契約締結・交付決定済の件数。（四捨五入の関係で合計が合わない場合がある）

## 第3期（令和7年度補正予算分）の公募開始及び予定

- これまでの運営実績を踏まえ、第3期は4月24日より3テーマの公募を開始。（第1期は7月上旬、第2期は5月中旬から公募開始）
- より質の高い提案を受け付けるべく、第2期と同様、全19テーマの公募予定時期を3月13日に公表。段階的に公募を開始し、それぞれで提案を受領後、審査会による審査を経て採択決定・公表を進め、**今年度中に全テーマの審査・採択完了することを目標**に運営していく。

公募開始時期	第3期技術開発テーマ名（全19テーマ）
4月下旬 (4月24日に公募開始)	【総】衛星通信利活用を拡大するための汎用地上アンテナ及びユースケースの開発・実証 【文】衛星応用に向けた光・量子センシング技術 【経】宇宙実証機会の拡大に資する衛星を活用した軌道上実証の低コスト・高頻度化技術の開発実証
5月中旬 (5月15日に公募開始)	【経】民間ロケット打上げ実証加速化（STAND） 【文】LEO拠点リブースト技術
6月中旬	【文】打上げシステムへの洋上活用技術 【文】月・小惑星等の宇宙資源活用に向けた技術 【経】宇宙交通管理を見据えた自律性確保に資する事業化加速
6月下旬	【総】次世代衛星通信を実現する革新的衛星搭載アンテナの開発・実証 【総】月・地球間通信インフラの実現に必要な地球局の開発・実証 【文】LEO利用促進技術
7月上旬	【文】宇宙輸送機の大気圏再突入における熱防護技術 【経】デジタル技術を前提とした衛星開発・製造プロセスの刷新及び機能高度化の技術開発・実証
7月下旬	【総】衛星を取り巻くセキュリティ技術（電波の妨害・傍受対処技術）の開発・実証 【文】SX技術シーズ統合・人材育成拠点（SX-CRANE）
8月上旬	【経】ロケット飛行運用の効率化・高機能化 【文】物理AI等による宇宙システムの革新技术 【総】Q/V帯等通信機器の開発・実証
8月下旬	【文】SX基盤領域発展研究（SX-ARK）

1. 第1期事業

2. 第2期・第3期事業

3. 今後の予定



# 成果最大化に向けた支援①

## ～認知拡大・新たなプレイヤーの掘り起し等のための広報活動～

- 実施機関が取り組む技術開発の認知度向上や、新たな事業機会につなげるための機会を提供

### SPEXA (5/27-29@東京ビッグサイト) とのコラボ

- ・ 特設ページで出展する実施機関や基金とのコラボ内容を紹介中。
- ・ JAXAと実施機関のパネルディスカッション及び実施機関のピッチを企画。
- ・ 来場者向けのスタンプラリーを企画。実施機関の出展ブースをまわるとオリジナルステッカー（3ブース）やタンブラー（7ブース）をプレゼント。



「宇宙戦略基金事業」採択・出展企業 特集  
Supported by JAXA

**「宇宙戦略基金事業」採択・出展企業ブーススタンプラリー**

「宇宙戦略基金事業」採択・出展企業のブースをまわってスタンプを集めると、景品をプレゼント!

- ・3社回った方 **「JAXA宇宙戦略基金ステッカー」**
- ・7社回った方 **「JAXA宇宙戦略基金タンブラー」**

※参加費無料 ※景品は一人様につき1点まで ※毎日100点限定、なくなり次第終了 ※イメージ

### PR TIMES

- ・ PR TIMES社とJAXA宇宙戦略基金事業部との協力覚書を締結。
- ・ 実施機関によるプレスリリースの無償配信プログラムを提供。
- ・ 実施機関の広報担当者向けセミナー 兼 交流会を企画中。

### 成果広報のためのHPリニューアル

- ・ 公募中心のサイトから、実施機関の成果を伝えやすい構成に改修中。

### 講演機会依頼対応

- ・ 地球観測データ利用ビジネスコミュニティ<BizEarth>（4/24・東京都）
- ・ 中部経済産業局（5/14・愛知県）
- ・ 新産業創造研究機構<NIRO>（6/5・兵庫県）
- ・ SpaceMedia（6/10・東京都）
- ・ Interop Tokyo（6/11・千葉県）
- ・ 海洋研究開発機構<JAMSTEC>（7/10・神奈川県）

# 成果最大化に向けた支援②

## ～実施機関の海外展開の促進等のための国際的活動～

- 採択事業者による海外への事業展開を促進するための取組を実施中。

### 海外展開支援方針2026の公表

- 日本企業への海外展開支援に係るアンケート結果等を定量的に分析し、重点エリア・イベントや方針を 2026年度の活動計画として策定・公開。

### Space Symposiumにおける出展支援及び日米レセプション

- 宇宙産業展示会として高い人気のSpace Symposiumで基金採択事業者を含めた日本企業のブース出展支援を実施。今回は日米でのネットワーキング・レセプションも開催。



#### 2026年度の活動計画（現時点版）

- アンケート結果等を踏まえ、現時点での活動計画は以下の通り。
- 今後、前ページの6社の委託事業者やJAXAが各種イベントを新たに企画次第、次ページにおいて情報発信を行う。
- 4月13-16日 Space Symposium 2026@米コロラドスプリングス - 展示会出展支援 ※締め切り済み
- 5月中目途 海外における衛星データ利用システム等の開発・実証、社会実装基盤整備事業者等（6社）の支援内容の説明会
- 5月27-29日 SPEXA@東京ビッグサイト - 宇宙戦略基金事業とのコラボイベントの実施
- 7月6-9日 SPACETIDE@東京虎ノ門 - 宇宙戦略基金事業の実施機関と海外企業とのBtoBマッチング支援
- 8月23-26日 Small Satellite Conference@米ソルトレイク - 企業情報の発信、展示会出展支援【TBD】
- 9月7-9日 Bengaluru Space Expo 2026@インド - JETROと検討中
- 10月5-9日 IAC@トルコ アンタルヤ - 展示会出展支援 ※5月募集開始
- 11月17-19日 Space Tech Expo Europe@独ブレーメン - 企業情報の発信、展示会出展支援【TBD】
- 10月27-30日 APRSAF@タイ - BtoBマッチング支援
- 12～1月頃：年1回の企業向けアンケートの実施



### 貿易管理制度等説明会

- 海外展開支援アンケートにおける企業からのご要望等を踏まえ、経済産業省 貿易管理部・宇宙産業課と共催で、安全保障貿易管理制度および技術流出対策に関する説明会を開催。

3月18日宇宙ビジネス向け 安全保障貿易管理制度説明会および質疑応答（経済産業省・JAXA 共催）  
[https://aerospacebiz.jaxa.jp/Spacebiz\\_global/export-control.html](https://aerospacebiz.jaxa.jp/Spacebiz_global/export-control.html)

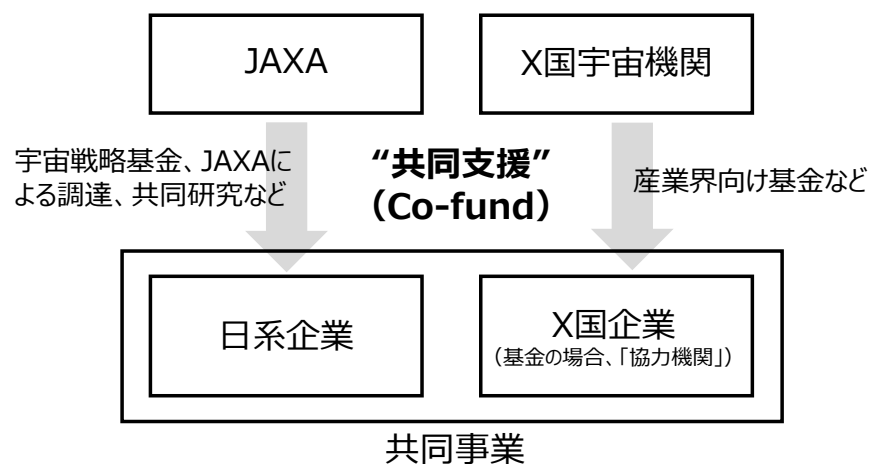
## 成果最大化に向けた支援③

### ～実施機関の海外展開の促進等のための国際的活動～

- 海外宇宙機関とのCo-fundを促進するため、JAXAとして「Co-funded事業推進枠組み（CBPF）」という文書を公開し、**英国のほか仏国とも本枠組みに基づく協力を合意済み**。現在、複数のアジア諸国とも調整中。
- 具体的なCo-fund案件の創出に向けては、**宇宙戦略基金で採択された事業者と、海外企業とのB2Bマッチングイベントを企画**中（マッチングシステムを活用した個別ブースによる商談会；7月上旬のSPACETIME期間のサイドイベントとして）。
- 候補事業については[情報提供フォーム](#)から多くの情報提供が行われているところ。

#### ■ 「Co-funded事業」のイメージ

#### ■ 合意国



[Co-fundに関する各種情報はこちら](#)

英国宇宙庁(UKSA)  
2025年10月24日合意



2025/10/27日英B2Bイベント



フランス国立宇宙研究センター (CNES)  
2026年4月2日合意



2026/3/31 日仏企業ネットワーキング  
(ピッチセッション)



# 今後の予定

- 4月より開始した第3期の公募・審査・採択に係る取組を着実に進めるとともに、第1期、第2期にて採択した事業者に対する技術開発マネジメントを適切に進めていく。

## ○ 第3期の公募・審査・採択の着実な実施

- 第3期については、4月24日より第1弾の公募を開始。
- 今後、段階的に公募を開始し、それぞれで提案を受領後、審査会による審査を経て採択決定・公表を進め、今年度中に全テーマの審査・採択完了することを目標に運営していく。

## ○ SG評価の着実かつ厳正な実施

- 今年度に予定されている24件のステージゲート評価を着実かつ厳正に実施するとともに、基金事業としての成果最大化に向けた取組を進める。

## ○ 主な採択事業者の経営層と石田PDとの面談

- 基金の支援を得ることを通じての、事業者側の事業成功に向けたコミットメントを確認することを主目的に、事業者としての現況に対する課題認識や、目標達成に向けての見通し等について、第1期事業者の経営層（8課題分）と石田PDとの間で、意見交換の実施。
- 第1期と同様に、第2期の採択事業者のうち、比較的支援金額が大きな技術開発テーマの採択事業者を中心に実施予定。

# 參考資料

## 宇宙戦略基金事業第2期（令和6年度補正予算分）採択結果

No.	領域	第2期技術開発テーマ名	支援規模	支援期間 (最長)	採択予定件数	実施機関名
1	衛星	【総】衛星光通信の実装を見据えた衛星バス及び光通信端末の開発及び製造に関するフェーズビリティスタディ	4億円	2年	2件程度	○日本電気株式会社 ○三菱電機株式会社 ○国立研究開発法人情報通信研究機構 (令和7年10月10日 公表)
2	探査	【文】月面インフラ構築に資する要素技術	80億円	5年	3~5件程度	○国立大学法人東北大学 ○学校法人立命館 ○国立大学法人東京大学 (令和7年10月10日 公表)
3	探査	【文】高頻度物資回収システム技術	25億円	3年	1件程度	○株式会社ElevationSpace (令和7年11月7日 公表)
4	衛星	【総】衛星光通信を活用したデータ中継サービスの実現に向けた研究開発・実証	235億円	5年	1件	○株式会社Space Compass (令和7年11月21日 公表)
5	輸送	【経】高頻度打上げに資するロケット部品・コンポーネント等の開発	195億円	4年	10件程度	○NECスペーステクノロジー株式会社 ○イーグル工業株式会社 ○Space BD株式会社 ○エア・ウォーター株式会社 ○シンフォニアテクノロジー株式会社 ○株式会社MJOLNIR SPACEWORKS ○株式会社SUIHO SPACE INNOVATIONS (令和7年11月21日 公表)
6	輸送	【経】射場における高頻度打上げに資する汎用設備のあり方についてのフェーズビリティスタディ	5億円	2年	1件程度	○株式会社IHIEアロスペース (令和7年11月21日 公表)
7	衛星	【文】空間自在利用の実現に向けた技術 A 軌道上製造・組立技術の開発 B 軌道上物体除去技術の開発 C 宇宙状況把握技術の開発	165億円	6年	(A)2~3件程度	○三菱電機株式会社 ○東レ株式会社
				4年	(B)1~2件程度	○株式会社パワーレーザー
				4年	(C)1~2件程度	○Star Signal Solutions株式会社 ○株式会社IHI ○株式会社パワーレーザー (令和7年11月28日 公表)
8	探査	【文】船外利用効率化技術	65億円	6年	1件程度	○株式会社日本低軌道社中 (令和7年11月28日 公表)

## 宇宙戦略基金事業第2期（令和6年度補正予算分）採択結果

No.	領域	第2期技術開発テーマ名	支援規模	支援期間 (最長)	採択予定件数	実施機関名
9	輸送	【経】高頻度打上げに資するロケット製造プロセスの刷新	245億円	4年	10件程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○株式会社UACJ</li> <li>○東レ・カーボンマジック株式会社</li> <li>○徳田工業株式会社</li> <li>○富士精工株式会社</li> <li>○株式会社光製作所</li> <li>○スペースワン株式会社</li> <li>○北斗株式会社</li> <li>○赤星工業株式会社</li> <li>○株式会社IHI (令和7年12月19日 公表)</li> </ul>
10	衛星	【文】地球環境衛星データ利用の加速に向けた先端技術	40億円	6年	3件程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○株式会社Preferred Networks</li> <li>○株式会社Tellus</li> <li>○株式会社スペースデータ (令和7年12月19日 公表)</li> </ul>
11	衛星	【総】国際競争力ある通信ペイロードに関する技術の開発・実証	58億円	5年	1件程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三菱電機株式会社 (令和7年12月19日 公表)</li> </ul>
12	衛星	【総】衛星光通信の導入・活用拡大に向けた端末間相互接続技術等の開発	30億円	3年	1件程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○株式会社ワープスペース (令和7年12月19日 公表)</li> </ul>
13	衛星	【総】衛星通信と地上ネットワークの統合運用の実現に向けた周波数共用技術等の開発・実証	110億円	5年	1件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽天モバイル株式会社 (令和8年1月16日 公表)</li> </ul>
14	探査	【文】月極域における高精度着陸技術	200億円	5年	1件程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○株式会社ispace (令和8年1月16日 公表)</li> </ul>
15	探査	【文】軌道上データセンター構築技術	135億円	6年	1件程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○株式会社SpaceBlast (令和8年1月16日 公表)</li> </ul>
16	衛星	【文】空間自在移動の実現に向けた技術 A 軌道間輸送機の開発 B 軌道上燃料補給のコア技術開発 C 宇宙ロジスティクスの研究開発	300億円	7年	(A)1~2件程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本電気株式会社</li> <li>○三菱電機株式会社</li> <li>○株式会社Pale Blue</li> </ul>
				4年	(B)1~2件程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○株式会社アストロスケール</li> </ul>
				3年	(C)1~2件程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○横浜国立大学 (令和8年1月23日 公表)</li> </ul>

## 宇宙戦略基金事業第2期（令和6年度補正予算分）採択結果

No.	領域	第2期技術開発テーマ名	支援規模	支援期間 (最長)	採択予定件数	実施機関名
17	共通	【文】宇宙転用・新産業シーズ創出拠点「SX-CRANE」	110億円	8年	5件程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国立大学法人東京科学大学 (課題名：有人火星時代に向けた環境センサ・小型ペイロード開発拠点)</li> <li>○国立大学法人東京海洋大学</li> <li>○国立大学法人山形大学</li> <li>○学校法人早稲田大学</li> <li>○国立大学法人東京科学大学 (課題名：宇宙での医療と一体化した居住空間開発拠点) (令和8年2月6日 公表)</li> </ul>
18	共通	【経】宇宙機の環境試験の課題解決 A 各種環境試験（放射線試験を除く）の課題解決 B 放射線試験の課題解決 I.放射線試験の課題に対応する設備の開発 II.放射線試験の課題（設備以外）に対応するシステム開発等	230億円	5年	(A)2件程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○IMV株式会社</li> </ul>
				5年	(B)4件程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>I.放射線試験の課題に対応する設備の開発</li> <li>○大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構</li> <li>○国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 (課題名：J-PARCリニアックの陽子ビームを用いた宇宙機放射線試験施設の開発)</li> <li>○国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 (課題名：JAEA東海タンデム加速器における放射線試験設備の開発)</li> <li>○国立研究開発法人理化学研究所</li> <li>○国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構</li> <li>II.放射線試験の課題（設備以外）に対応するシステム開発等</li> <li>○SEESE株式会社 (令和8年2月13日 公表)</li> </ul>
19	輸送	【文】有人宇宙輸送システムにおける安全確保の基盤技術 A 生命維持・環境制御機能と与圧機能を実現する基盤技術開発 B 「異常検知機能」と「離脱機能」を実現するための基盤技術の検証	100億円	3年	(A)1~2件程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○株式会社岩谷技研</li> <li>○宇宙システム開発株式会社</li> </ul>
				3年	(B)1~2件程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○将来宇宙輸送システム株式会社</li> <li>○三菱重工工業株式会社 (令和8年2月20日 公表)</li> </ul>

## 宇宙戦略基金事業第2期（令和6年度補正予算分）採択結果

No.	領域	第2期技術開発テーマ名	支援規模	支援期間 (最長)	採択予定件数	実施機関名
20	衛星	【経】衛星データ利用システム実装加速化 A 衛星データ利用システムの開発・実証 B 海外における衛星データ利用システム等の開発・実証、社会実装基盤整備 C 衛星データ利用システムの開発・実証環境整備	176億円	5年	(A)30件程度	○住友林業株式会社 ○東京海上レジリエンス株式会社 ○株式会社Archeda ○国際航業株式会社 ○Green Carbon株式会社 ○株式会社ウエスコ ○一般財団法人リモート・センシング技術センター ○Space Tech Accelerator株式会社 ○沖電気工業株式会社 ○Location Mind株式会社
				5年	(B)5件程度	○一般財団法人日本宇宙フォーラム ○一般財団法人衛星システム技術推進機構 ○一般社団法人クロスユー ○株式会社三菱総合研究所 ○株式会社野村総合研究所 ○デロイトトーマツスペースアンドセキュリティ合同会社
				5年	(C)1~3件程度	○一般財団法人リモート・センシング技術センター (令和8年3月13日 公表)

## 宇宙戦略基金事業第2期（令和6年度補正予算分）採択結果

No.	領域	第2期技術開発テーマ名	支援規模	支援期間 (最長)	採択予定件数	実施機関名
21	共通	【文】SX中核領域発展研究「SX-ARK」 ・「熱とデバイス」領域 ・「運動と制御」領域	100億円	4年	20～40件程度	<p>【「熱とデバイス」領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学</li> <li>○国立大学法人名古屋工業大学</li> <li>○キオクシア株式会社</li> <li>○国立大学法人北海道大学</li> <li>○国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学</li> <li>○ダイキン工業株式会社テクノロジー・イノベーションセンター</li> <li>○株式会社エネコートテクノロジーズ</li> <li>○国立大学法人愛媛大学</li> <li>○国立大学法人岩手大学</li> <li>○株式会社ケミトックス</li> <li>○大熊ダイヤモンドデバイス株式会社</li> <li>○国立研究開発法人産業技術総合研究所</li> <li>○国立大学法人大阪大学</li> </ul> <p>【「運動と制御」領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○合同会社バッチドコニックス</li> <li>○国立大学法人島根大学</li> <li>○株式会社SteraVision</li> <li>○国立研究開発法人産業技術総合研究所</li> <li>○国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学</li> <li>○国立大学法人東京大学</li> <li>○国立大学法人横浜国立大学</li> <li>○株式会社フコク</li> <li>○三洋化成工業株式会社</li> <li>○学校法人東京理科大学</li> <li>○大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台</li> <li>○NECスペーステクノロジー株式会社</li> <li>○国立大学法人九州大学</li> <li>○国立大学法人 神戸大学</li> <li>○国立大学法人東北大学</li> <li>○日本化薬株式会社</li> <li>○国立大学法人京都大学</li> <li>○八田・山本宇宙推進機製作所株式会社</li> </ul> <p style="text-align: right;">(計31件)</p> <p style="text-align: right;">(令和8年3月13日 公表)</p>

## 宇宙戦略基金事業第2期（令和6年度補正予算分）採択結果

No.	領域	第2期技術開発テーマ名	支援規模	支援期間 (最長)	採択予定件数	実施機関名
22	衛星	【文】次世代地球観測衛星に向けた観測機能高度化技術	100億円	7年	(A) 2件程度	○株式会社アクセルスペース
		A 新たな市場の開拓 B 既存市場の獲得規模拡大		7年	(B) 1件程度	○株式会社Synspective (令和8年3月23日 公表)
23	衛星	【経】革新的衛星ミッション技術実証支援	120億円	5年	3件程度	○Sarmony株式会社 (令和8年3月23日 公表)
24	輸送	【文】スマート射場の実現に向けた基盤システム技術	85億円	5年	1~2件程度	○採択なし (令和8年3月23日 公表)